

一部の地域の方は、僕たちのがんばりに対して飲み物を出してくださったり、ユリの花をプレゼントしてくださったりしました。後になって学校に「よくやってくれて感心した」という電話を下された方もいらっしゃいました。それは僕たちの予想外のできごとでした。ほめてもらうためにやったことではありませんが、そうやって認めていただくと、やってよかったという気持ちでいっぱいになりました。

作業後、全校生徒が体育館に集まって、報告・反省会を行いました。どの班長も「自分たちの地域にこんなにゴミが落ちているとは気付かなかった。自分たちも無意識に汚していることもあるかもしれないから気をつけよう。」「ポイ捨てをする人がいるのはいやだ」といった内容のことを言っていました。これを期に環境に対する意識も高まったと感じました。ゴミを拾いながら、どこにでもゴミを捨てることはいけないという基本的なことが確認できたことはとてもよかったと思います。

私自身もこのクリーン作戦を実施してよかったと思います。僕たちができることは小さなこととは思いますが、少しずつでもふるさとの三条の役に立てれば嬉しいです。でも、本当はクリーン活動をする必要がないくらいゴミのないきれいな三条市であってほしいと思っています。

三条市立第二中学校 保健福祉委員長 栗山 優さん

ボランティアの語源は「V O L O」というラテン語で、これは自分の意志によって何かを行うという意味のようです。つまりボランティアはそれぞれの人の自由な意志によって、個人が持っている能力や労力を社会に役立てる活動であるといえると思います。

現在の社会はボランティアの重要性が盛んに言われています。先生方の話しやテレビなどを見ると、これからもっと必要になってくることは確実なようです。

ですから中学生の私たちもボランティア精神を身につけておかなければなりません。実際にボランティア経験のない人は大人になってからもやってみることに抵抗があるかもしれません。でも、今から色々なことに取り組んでいけば、その経験から意識しなくてもボランティアに参加できるようになるのではないかと思います。

本来ボランティアは誰かに認めてもらうために行うものではあませんが、きっかけが大切なので、生徒会では今年度もボランティア事務局を設置し、ボランティアの計画や呼びかけを行いました。そして、ボランティアに参加した人にはボランティアカードを発行し、印をつけました。

実際に取り組んだものは、

- ・地域クリーン作戦（6月）
- ・五十嵐川クリーン作戦（7月）
- ・ベコニアの苗の植え替え（6月）
- ・長和園ボランティア訪問（11月、2月）
- ・校内ワックスがけ（12月）
- ・三条産業祭包丁研ぎ（11月）

などがあります。

先ほどクリーン作戦のことについて話をしたので、私からは長和園のボランティア訪問の話をします。

7月に三条市のボランティア体験というものがあって、私と修成会の人達4人で参加してきました。

長谷川恵慈君 二中の教頭先生、捧君、栗山さん御苦労様です。

山 中 正 君 先週の例会、欠席でした。副S A Aの西村さんにはいつもありがとうございます。

馬場直次郎君 まもなく立春を迎えます。今日はなつかしい母校第二中学の教頭先生そして生徒会の代表お二人の卓話楽しみにしています。私の子供の頃は確か生徒会の名前は修正会という名前でしたが、今も変わりはないでしょうか、少年時代の木造校舎が眼に浮かんできました。

山 崎 勲 君

佐藤啓策君 ボックスに協力

高橋彰雄君 第二中学校教頭先生、生徒会長の捧さん、副会長の栗山さん、卓話御苦労様です。

ロータリー財団ボックス：

今井克義君 島田先生、捧靖彦君、栗山優さん、本日は大変ありがとうございました。歓迎申しあげます。

久保博君 又、齢を重ねました。寒さが一層こたえます。2／1誕生日です。

梨木建夫君 浏岡スーパーマンに敬意を表して――。

阿部誠一郎君 ボックスに協力して。

浏岡茂君 大きい声では言えませんが、今年はじめての出席です。1月は旅ガラスでした。今年1年間を占う様です。本年も宣しくどうぞ、2／8国際奉仕大委員長の卓話にて財団協力出きたら1口頼みます。

堀川正幸君

卓 話： 卓話「ボランティア活動について」

三条市立第二中学校 教頭 島田信秀様
生徒会長 捧 靖彦君 保健福祉委員長 栗山 優さん

三条市立第二中学校 教頭 島田信秀様

社会の急激な変化とともに子供たちの心も変わり始め、子供たちをとりまく環境そのものについて、学校も、家庭も、地域も、それぞれが真剣に考えるべき時期にさしかかりました。平成に入り「心の教育」の重要性が叫ばれ始めましたが、昔では考えられなかった青少年の犯罪のニュースが報道されるたびに、日本は欧米諸国と同じになってきたと感じさせられます。

そんな時代だからこそ私は、ボランティア活動を通して子供たちの心を育むことの重要性を感じています。当然学校は勉強するところですが、豊かな体験から何かを学ぶ所でもあります。おかげさまで校風も落ち着いてきた当校では数年前からボランティア活動に本腰を入れてまいりました。

活動にはそれぞれ、違うメリットがあると思います。五十嵐川クリーン作戦は、多数のP T Aの方々との貴重な心のふれあいの場面となっています。学区内の地域清掃では、気づかなかったゴミ

の投げ捨てる多さに気づきながら「ごくろうさん」というお礼の言葉をかけてもらうことにより「やってよかった」という充実感をおぼえた生徒がたくさんおります。長和園訪問でも、お年よりとのふれあいを通して感動的な体験をしています。

ボランティア活動は「報酬を得ないで人のために何かをすること」と簡単に表現されますが、私たちは「心に何かが残る回を重ねるごとに心が豊かに」なっ

てはじめてボランティア活動だととらえています。それがまさに「心の教育」のひとつの形だと思うのです。ですから当然の事ながら“言われたから参加した”とか“いやいやながら活動した”ではボランティア活動だと考えていません。さらに言わせていただければ、高校入試や大学入試の調査書に「ボランティア活動」の経験の有無が記載され始めて久しいのですが、私はとても憂慮すべきことだと思っています。実際、ボランティア活動に際して「入試に有利なんでしょう？」と言われたことが少なくありません。たとえそれが何げないことばでも、そしてわずかの生徒でも、ボランティア活動を少しでも曲げて理解されているという事実を悲しく思います。わたし自身も長年生徒と共にボランティア活動を経験してきたからこそなお痛切に感じます。

また、最近感じることのひとつに、中学校で芽生えたボランティア意識がその後しぼんでしまう生徒が多いのではないかと言うことです。全校あげてのボランティア活動などは高校ではあまり行われていないようですし、五十嵐川クリーン作戦を見ても高校生の数は少ないようです。小さな活動でも、継続的にボランティア活動に参加してくれる生徒は視野の広い心豊かな人間に成長しているようですので、少し残念な気がします。

私は昭和50年代後半に入ると「校内だけでの生徒会活動の時代は終わった」と思うようになりました。そういう自分の考えを信じて、生徒と共にボランティア活動に取り組み始めました。全国の学校で初めてユニセフ街頭募金を始めたのですが、夏の炎天下と大みそかの寒さの中での募金活動は、参加した子供たちの脳裏に焼き付いて離れないそうです。養護学校も毎年必ず訪問したのですが、参加した生徒の中には、母親のあとを継いで将来看護婦さんになるという幼い頃からの夢を根本からすてて、親の反対をおしきって知恵遅れの子供たちに一生をささげる道を選んだ生徒もおりました。

私は二中のボランティア活動も、来年度以降さらに前向きに発展させて、このような気持ちをもつ生徒がひとりでも多く現れるよう、陰ながら方向づけをしたいと考えております。生徒の心を育てるために、積極的に教育活動との連携を図りながら、生徒会活動を支援していきたいと考えております。



昨年の秋、神戸を訪れた際にある店の主人から言われた言葉が忘れられません。「震災後は何が嬉しかったかって、遠く大阪あたりから自転車でかけつけてくれた人たちの善意がたまらなく嬉しかった。その人たちのやる気が私たちを勇気を与えてくれました。」

将来大人になった時に、自然にこのような行動がとれる思いやりのある生徒を一人でも多く育てたい。こんなことを思いながら、これからの第二中学校の生徒会のボランティア活動を見守り、支援していきたいと考えております。

三条市立第二中学校 生徒会長 捧 靖彦君

今までの二中のボランティアの歴史を振り返ってみると、以前から二中は確かに地域に密着したボランティア活動は行っていたようです。しかし、二中の生徒会という組織としての活動ではなかったため、4年前より生徒会本部の中に『ボランティア事務局』を設置しました。

ボランティア事務局を設置したばかりの頃は、生徒へのボランティアの意識付けのために地域でボランティアにたずさわっている方を講師にお招きして、講演会を開いたりしていたようです。

この事務局を設置する以前は五十嵐川のクリーン作戦が行われていることもあまり知られていませんでした。しかし、事務局で積極的に参加を呼びかけ、参加人数も年々増加しています。

草がボウボウに生え、ごみが落ち、輝きを失った五十嵐川をきれいにするために、僕はクリーン作戦に3年間参加しています。参加するたびにゴミの多さに驚きます。作業はそのゴミを拾ったり、刈り取った草を運ぶという単純なものです。仲間と協力しながら作業を進め、五十嵐川が輝きを取り戻すと、自分の心も綺麗になっていくような気持ちになります。終わった後は清々しく、いただいたジュースもいつもよりおいしく感じられます。そして、綺麗になった川を見ていると、一層ふるさとの三条が好きになっていくような気持ちになります。休日の朝の作業ということもあり、出かける前はわずらわしさも感じるのですが、終わった後の爽快感はなににもかえがたいです。

現在、二中では五十嵐川クリーン作戦以外にも様々なボランティア活動を行っています。その一つとして学区内クリーン作戦というものを行っています。

このクリーン作戦は一昨年まではウォークラリー方式で行われていました。しかし、それでは一定のコースしかきれいになりませんし、地域の方々との触れ合いも少ないので、今年度から、各町内ごとに行うことにしました。

しかし、新しいことを行うには様々な問題がありました。

「ゴミを集めるのはいいが、どうやって学校に持ってくるのか」「持ってきたゴミをどのように処分したらいいのか」などの問題です。

そこで先生方とも相談し、色々と知恵を出し合いました。その結果、市役所の方が各地区を回り、ゴミを回収してくださることになりました。私たち中学生だけの力ではどうにもならないことがたくさんあります。そんな中、市役所の方の協力は大変嬉しく、心強く感じました。

町内クリーン作戦の当日は、みんなで自分の住んでいる地域を、大好きな三条をきれいにしたいという気持ちで一糸懸念に作業をしました。地域の方も大勢参加して下さり、お互いに声をかけ合いながら一緒にごみ拾いをしました。